

<豊田通商 IR 説明会（Radius Recycling, Inc. 社の株式取得（完全子会社化））>

日時：2025 年 3 月 14 日（金）11：00～12：00

出席者：CSO 富永、サーキュラーエコノミー本部 COO 片山、CFO 補佐會田

【ご挨拶】

CSO の富永です。

本日は急なお声かけにもかかわらず、豊田通商の説明会にご参加いただきありがとうございます。

本日公表した、「米国で金属スクラップ、リサイクル事業を営むラディウス リサイクリング社の株式取得、100%子会社化」について、概要を CFO 補佐の會田からご説明したのち、サーキュラーエコノミー本部 COO の片山より詳細についてご説明をいたします。それでは會田より概要をご説明します。

【案件概要】

まず、案件概要についてです。取得予定金額は9億7百万 US ドル、およそ1,300億円強となります。買収価格について、ラディウス社の3月12日株価終値に対するプレミアムは115%、90日平均の株価終値に対するプレミアムは102%となっております。

今後のスケジュールについてですが、日本時間本日、米国時間昨日3月13日に合併契約を締結し、各種申請、届出を開始しております。このあと、2025年第2四半期には本件に関わるラディウス社において株主総会を開催予定、第3四半期にて合併完了、100%子会社化を予定しております。

本件のスキームについて、当社のアメリカ現地法人である豊田通商アメリカ（TAI）によるSPC 設立後、ラディウス社を存続会社として合併を行い、TAI 社の100%子会社となります。

【Radius Recycling, Inc.について】

サーキュラーエコノミー本部の片山です。

今回株式を取得するラディウス社は1906年創業の米国企業で、金属スクラップ再資源化事業や、廃車部品販売事業を米国で展開しています。非上場会社が多いリサイクル業界において、同社はNASDAQに上場しております。再資源化事業において、金属スクラップや廃車の回収力が成功の鍵となりますが、ラディウス社は全米に100を超える自社回収拠点集荷

拠点を有しており、これが同社の強みの1つとしてあげられます。

業績推移につきまして、足元2023年8月期と2024年8月期については、市況の影響とのれん減損の一過性影響により赤字となっておりますが、今後、カーボンニュートラル達成に向けてスクラップ需要は世界的に拡大する見込みであり、市況回復のみならず、当事業の高いポテンシャルがあると予想しています。

株価推移について、足元株価は低迷しておりますが、ラディウス社の集荷プラットフォームに我々のサービスや機能が加わることで、今回の買収価格を上回る付加価値の提供が可能であると考えております。

ラディウス社が、循環型静脈事業を成長戦略の1つとする当社グループの一員となることで今後、シナジーが発揮され、成長戦略が大きく前進します。

【ありがたい姿と本件の狙い】

豊田通商グループは、スクラップ発生量が豊富な北米において再生資源を取り扱い、グローバルへの供給基地となることで、幅広くサーキュラーエコノミーやカーボンニュートラルに貢献することを目指しています。

ラディウス社が一員となることで、自動車領域で培った当社機能とラディウス社保有の「回収インフラとリサイクル母材」を掛け合わせ、シナジーを最大化することで企業価値の向上を図ることが本件の狙いです。

ラディウス社の強みは、繰り返しになりますが、再生母材の回収力です。

ここに豊田通商グループの強みである、自動車関連分野での圧倒的な競争優位性を掛け合わせてまいります。

自動車生産・使用済み自動車由来の再生資源を回収し、自動車の生産に再度供給する仕組みである、「クローズドループの構築」、バリエーションに富んだ「再資源化機能」、そして「再資源化技術」をラディウス社の強みとしっかりと掛け合わせることで、スクラップや使用済み自動車のみならず、今後大きな社会課題となる車載用バッテリーのリサイクルについても、新しいビジネスとして取り組んでまいります。

【豊田通商グループとのシナジー】

このように、豊田通商グループの重点分野である資源循環事業との親和性、そして、相互補完により、豊田通商グループの事業拡大を進めます。

シナジーの具体的な事例についてご説明いたします。

金属スクラップ領域において、ラディウス社は力強い回収力を発揮し、これに豊田通商グループが持つ日系自動車 OEM の強固な顧客基盤や、磨き上げ、作り込んできた再生資源品質へのこだわりを掛け合わせることで、グリーンステールのサプライチェーン構築といった、新しい価値の創造が期待できます。また、自動車 OEM の再生資源ニーズに対する高品質な再生材料サプライチェーン構築により、これまで以上にお客様に信頼され、より競争力を高められると考えています。

使用済自動車領域においても、50 か所もの回収拠点網から大量のシュレッダー母材を収集、豊田通商グループの高いリサイクル率により自動車スクラップを自動車製造ラインに戻していくクローズドループを実現します。これにより、既存の取扱商品、再生資源や部品の更なる付加価値向上とともに自動車 OEM 向け再生貴金属についても供給量を伸ばしていく見込みです。

車載用バッテリーにつきましては、ラディウス社をハブとしてバッテリーを回収し、それを豊田通商グループの再生技術、バッテリーメーカーとのサプライチェーンを通じた深い関係を活用し、バッテリークローズドループの構築を目指します。

以上